

1970年代フランスにおけるダンス政策

お茶の水女子大学大学院生 壽田 裕子

1. 研究目的

フランスにおけるダンス・コンタンポレンスⁱは、1980年代に社会党政権下で文化大臣ジャック・ラングが提唱した「現代の芸術表現に対する優先権」の対象となり発展、国立振付センター('84)、ダンス部門の国家教員資格('89)が制度化された。これらダンス・コンタンポレンスの政策的な受入れは、国立パリ・オペラ座舞台芸術研究グループの創設('75)、国立現代舞踊センターの開設('78)といった史実をみると、70年代に政策の基礎が築かれたことが推測される。そこで本研究は、1970年代フランスにおけるダンス政策の動向を踏まえ、ダンス・コンタンポレンスの発展の背景を読み解くことを目的とする。

2. 研究方法

先行研究 (Filloux-Vigreux 2001)ⁱⁱを基に、2002年9～11月国立パリ・オペラ座図書館を中心に収集した関連資料を用いて考察を行う。

3. 考察結果

(1)ダンス政策前史

'59年文化省発足後、文化大臣アンドレ・マルローが民衆教育を目的に文化の家の創設を通して文化普及政策に重点を置いたことに遡る。「振付の発展計画」として、'68年アミアン文化の家にバレエ・テアトル・コンタンポランが創設されたことがダンス政策の始まりとなる。'70年文化省内に音楽・オペラ・ダンス局が創設され、政策を展開する。

(2)ランドゥスキー計画

正式名称は「フランスの音楽構造を組織化するための10年計画」。音楽・オペラ・ダンス局局長マルセル・ランドゥスキーが作成した計画は、①教育②普及③推進と監督の3つの観点から成る地方育成型の芸術推進計画で、実際には、①プロ養成機関である国立高等音楽院や地方音楽院、国立音楽学校の創設、②プロが活動する劇場の建設、劇場で活動するプロの歌劇団と振付カンパニーの創設、③計画を監督し推進する担当官の設置が行われた。ダンス部門の計画は音楽部門に比べて極僅かだったが、①では、専門の担当官を設け、地方音楽院や国立音楽学校のダンス授業の視察が開始された。②では、グルノーブル、マルセイユ、ミュルーズの3市に振付カンパニーが設置された。

(3)ジャン・マウ局長時代のダンス政策

後任マウ局長は、政策として①ダンス教育内容の改正、②振付カンパニーと政策の関係の強化を

提示した。①では、ダンス・クラシックのみだった国のダンス領域にダンス・コンタンポレンスを導入。身体訓練法にはアメリカのモダンダンスを選定、講師にマース・カニングハムとアルヴィン・ニコライを招聘した。②では、専門の担当官を設け、アンジェにダンス・コンタンポレンスの教育機関、ナンシーにバレエ団、レンヌに振付カンパニーを創設した。国の文化予算が低迷する中で文化支援の役割は国から地方自治体へ移り、パリ・オペラ座を優先とした政策は「教育」「創作」「カンパニーの援助」「普及」という方向性を見出し、ダンス・クラシックとダンス・コンタンポレンスにおいて若手の育成を優先するようになる。

(4)地方におけるダンスの文化活動

①バニョレ振付コンクール

コンクールの創始者ジャック・ショーランが振付センターの開設計画を提案、バニョレ市が受入れに応じたことに始まる。'69年コンクール「明日のためのバレエ」を開催した後、市は振付の活動が国の政策に結びつくよう「振付の実践と研究」「若手振付家の活動に対する理解と促進」「不足する財政と設備の充実化」を働き掛けた。さらにダンス教育におけるダンス・コンタンポレンスの必要性を問題にし、コンクールに国の代表者を派遣させ、若手振付家の育成を助長した。

②ダンス・フェスティヴァル

70年代後半～80年代初めに地方で開催されたダンス・フェスティヴァル「ダンス・ア・エクス」('78)、シャトーヴァロン・ダンス・フェスティヴァル('80)、モンペリエ国際ダンス・フェスティヴァル('81)等は若手振付家の活動の場となった。

(5)結論

1970年代フランスにおけるダンス政策は、文化省内にダンス部門が認知されたことにより専門の担当官を設置し、国のダンス領域をダンス・クラシックからダンス・コンタンポレンスへとその枠組みを広げ、ダンス・コンタンポレンスの教育機関とカンパニーを創設するまでに至った。以上から、70年代はダンス・コンタンポレンスの素地を作った時代であり、換言すれば、80年代に隆盛するダンス・コンタンポレンスの萌芽期であったといえる。

- i ダンス・コンタンポレンス *danse contemporaine* という名称は英語表記 *コンテンポラリーダンス contemporary dance* の同義に相当し「20世紀中に出現した様々なテクニックと美学を包含する総称表現」(Le Moal 1999:754-755)と定義される。フランスにおいては'70年代後半～'80年代初めに出現したドミニク・バグエ、マギー・マラン、ジャン＝クロード・ガロットらヌーヴェルダンス世代に適合する。
- ii Filloux-Vigreux, Marianne. 2001, *La Danse et l'institution-Genèse et premiers pas d'une politique de la danse en France 1970-1990*, L'Harmattan, Paris.